

要事前申込 t-naruse@mail.koka.ac.jpまで

定員80名

公開研究会

12月5日 土曜日

13:00 → 18:00

会場 京都光華女子大学

聞光館253教室

《GUEST》

河野哲也先生
(立教大学)

石井英真先生
(京都大学)

プログラム

13:00 はじめに

13:10 「レポート課題における到達目標と剽窃が困難となる論題について」
成瀬尚志(京都光華女子大学短期大学部)

13:40 「レポート課題における「問い」の重要性」
河野哲也先生(立教大学)

14:20 休憩

14:30 「パフォーマンス課題とルーブリックについて」
石井英真先生(京都大学)

15:10 グループディスカッション

15:25 全体討論・質疑応答

15:45 休憩

16:00 論題類型化ワークショップ

オリジナリティが
求められる
論題とその評価

レポート課題において教員は何を問い、どのように評価すべきか。また、(学部生に対する)レポート課題においてオリジナリティを求めることは可能だろうか。本研究会ではレポート課題において求められるオリジナリティに着目し、学生が頭を使わないと書けないレポート論題とその評価について検討する。また「論題類型化ワークショップ」において、参加者が過去に出題したレポート論題をグループでシェア・類型化し、学生が頭を使わないと書けないレポート論題について考える。

レポート課題において
何を問うべきか？

主催

科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究

「剽窃が困難となるレポート論題の類型化と論題に応じたルーブリックの開発」

代表 成瀬尚志